

◇ 4月の天文暦 ◇

| 日 時 | 記 事 |
|-------|-----------------|
| 4 4 | 月 最近 |
| 5 15 | 清明 (太陽黄経 15°) |
| 5 20 | 望 |
| 6 22 | 金星最大離角 (西 46°) |
| 13 2 | 下弦 |
| 16 22 | 月 最遠 |
| 18 20 | 水星最大離角 (西 28°) |
| 20~23 | 流星群 琴座 κ |
| 20 22 | 穀雨 (太陽黄経 30°) |
| 21 6 | 朔 |
| 25 17 | 木星 月の南 3° |
| 28 13 | 上弦 |

星雲めぐり (3)

不規則型 (Irr) の星雲は、北天を主とした明るい星雲の統計では、全体の約3%を占めている。ハブルの分類では、Irr の中でも渦状構造のはっきりあらわれない、高温の O, B 型星, HII (電離した水素) 領域に分解され、対称な形を示さない星雲を、とくに不規則第一型 (Irr I) と細分類している。星雲関係の知識の宝庫ともいべき、大小両マゼラン雲はこの種のもっとも典型的例である。

今回の NGC 4449 は、写真からも見られるように、北天における大マゼラン雲の化身ともいえる姿をした星雲である。 ($\alpha_{1950}=12^{\text{h}}25.^{\text{m}}8$, $\delta_{1950}=44^{\circ}22'$, りょう犬座, $m_B=10.08$, $C_{B-V}=0.38$, $V_R=207\text{km/sec}$)

筆者の意目かもしれないが、明るい中核部は棒 (Bar)

ができかかっているようにも見受けられ、構造上の対称性もわずかにうかがえそうである。中心から周辺部にわたって、多くの HII 領域が散在し、特に北端の部分では多くの明るい瘤がむらがっている。スペクトル写真では、 $H\alpha$, $H\beta$, [OIII], [OII], [SII], [NII] の輝線が観測され、なかでも $H\alpha$, [OIII] が顕著であり、広範囲な電離ガスの存在を物語っている。星間宇宙塵の吸収部分も各所に見られ、東周辺部には特に大きいのが見られる。偏光観測からは偏光度 20% という値 (マゼラン雲と同程度、 $Irr \rightarrow Sc \rightarrow Sb$ の順に小さくなる) が得られている。

この星雲は若々しい星々と、新しい星の誕生に必要な原料を豊富に持っていることであろう。もしこの星雲が近距離にあって、その偉容を誇っていたなら、大マゼラン雲に匹敵する資料を、今日より何十年か前にわれわれにもたらししてくれたのではなかろうかと、はなはだ勝手な想像をめぐらしながら、この星雲を眺めている。(UJ)



東京における日出入および南中 (中央標準時)

| IV月 | 夜明 | | 日出 | | 方位 | 南中 | | 高度 | 日入 | | 日暮 |
|-----|------|------|-------|-------|----|------|-------|-------|----|--|----|
| | 時分 | 時分 | 時分 | 時分 | | 時分 | 時分 | | | | |
| 1 | 4 56 | 5 29 | + 5°9 | 11 45 | | 58°7 | 18 2 | 18 34 | | | |
| 10 | 4 42 | 5 15 | +10.6 | 11 42 | | 62.5 | 18 10 | 18 43 | | | |
| 20 | 4 28 | 5 3 | +15.0 | 11 40 | | 66.0 | 18 18 | 18 52 | | | |
| 30 | 4 17 | 4 51 | +19.0 | 11 38 | | 69.2 | 18 26 | 19 0 | | | |

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出、右側は日入に対する値)

| 分 | 分 | 分 | 分 | 分 | 分 | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 鹿兒島 | +40 | +33 | 鳥 取 | +22 | +22 | 仙 台 | - 7 | - 2 |
| 福 岡 | +39 | +36 | 大 阪 | +18 | +16 | 青 森 | - 9 | + 1 |
| 広 島 | +30 | +28 | 名古屋 | +12 | +11 | 札 幌 | -14 | + 1 |
| 高 知 | +27 | +23 | 新 潟 | + 1 | + 5 | 根 室 | -31 | -15 |

